

## 四谷の

# 千枚田だより



第136号

千枚田」も「収穫感謝祭」も雨や雪の降ったためしはない。

## 収穫感謝祭

師走の七日、保存会主催、連谷お助け隊、棚田っ娘、ふるさと指導員共催で恒例の収穫感謝祭を行った。

前日の支度時には雪も舞い、明日を思いやられたが、雲ひとつない晴天に恵まれた祭日となった。そういえば梅雨最中、お助け隊の「灯そう



これも、鞍掛山の恵みと先祖の築いた遺産「千枚田」を地域の宝と守り、頑張る住民の姿にお天灯様もちやんと見ておられるおかげと感謝。  
十時開催、会長は「皆んな、責任を持って呑み、食い、語り、一年を労っていただきたい」と簡潔にあいさつ。参加者全員がさあ、呑むぞ、食うぞと支度に大はしゃぎ。

六臼の餅は参加者や子供もペツタシコ、ぺったんこと慣れない手つきで楽しげであった。つきたての餅はあんこ、草もち、大根おろし、きなこなど、皆んな「おいしい、美味しい」と、ひと臼ごとに行列ができた。  
お助け隊の焼き肉、イカ焼き、焼き蕎麦はプロも裸足で逃げたとか云う腕前で超好評であった。大はそり二杯のシシ汁は脂身も多く最高の旨さでお代わりが続出、資源の有効活用としてもよい供養になった。  
棚田っ娘が千枚田のコメで作った五平餅も美味しいと大好評。

市作手総合支所から借りてきたポン菓子機も「失敗の連続で、ああだから、こうだと評論化(家)が続出したが、最後には下カーンと大音響が棚田に木霊した。この「やんちゃ坊主」も催しに結構、華を添えてくれた。

何といっても感謝祭の盛り上げは十八年前から千枚田に魅せられ、今では棚田一番の百姓でありながら「わしは、よそ者だでのん」と口癖の河西さん。そのバンド仲間「河西忍と愉快な仲間」のエレキ、ギター、チェロなど、多彩な生演奏が会場いっぱい流れた。もし、このバンドがなかったら参加者は、ただ黙々と餅や焼き肉を求め、行列に終始したのではないかと余分な思いが少ない脳みその裾を過った。

いずれにしても前日までの寒さをひっくり返す好天に恵まれた感謝祭も参加者が一体となり師走の一日、今年最後のイベントが愉快地、楽しく締めくくれたことを一番喜んでくれたのは千枚田だと思ふ。

べてみたら二万五千五百二十円の赤字を背負った。これも日頃、地域活性、絆など「むらづくり」に貢献している連中へのささやかなお礼と思えば屁でもない。・涙



## 地域環境整備活動

十一月十六日、保存会が要望した新城市鳳来北西部地域活動交付金の採択を受け、若く力漲る連谷お助け隊主導で保存会員、地域住民など多くの出役を得て沿道・生活道の除伐、枝打ちなどをリリースした高所作業車、ダンプをフル活動、地域環境整備を実施した。

午前八時、連谷小学校前に集合した連谷お助け隊、保存会はリーダー（林 義明）のきびきびした指令の下に二班に分かれ作業を開始した。

一班は午前中、真菰集会場下のカーブ付近の雑木林の除伐を大々的に実施、川が見えるまで明るく整備した。午後は松下の馬頭観音付近の除伐や杉木立の枝打ちを行い見違えるほど見通しが良くなり防犯対



策、凍結防止をクリアした。

二班は旧県道で、重要な主要路線であった方瀬、与良木集落付近の道路が稲目トンネルの開通でお役目御免となり保全整備が疎通気味になり、道路上空の杉木立の枝や法面の孟宗竹などの生い茂っている箇所が目立ち、防犯上や枯れ枝の落下防止のためにも高所作業車で枝打ち、除伐を集落の住民共々実施した。午後は両集落から連谷小学校を繋ぐ生活道路の凍結箇所や防犯安全対策のための除伐を実施した。

与良木の老夫婦が暮らす母屋の庭木が大木になることを心配していると聞き、庭木の途中から切断、後片付けまでした。老夫婦は「俺の背丈は年々縮まるが、木ばかり大きくなり心配しとった」と喜んだ。

## 古米の出荷

湧水、天日干しの千枚田米は美味しいと人気があるが悲しいかな総面積が三、六畝と田園地帯の一経営体にも満たない面積で、販米まで至らないのが実情である。

昨年、豊橋の「八雲だんご」の鈴木社長さんが千枚田を訪れ、厳しい棚田の現状をお話しする機会を得た。（舜）の説明に社長さんは大きく感銘。後日、余剰米の古米を五平餅用に購入し、棚田保全に少しでも役に立てたいと連絡があった。



八月には、千枚田米の五平餅と（舜）の撮影したポストカードをセットに地元郵便局（季節限定）の宅配便で通販、好評を得た。また、来年の正月七日から五日間、東京池袋

西武においても鞍掛山麓千枚田保存会の法被を着て五平餅を販売するなど、精力的に四谷の千枚田の保全継承にご尽力いただいている。

**美の里づくりコンクールに応募**  
（二財）農村開発企画委員会主催、農林水産省後援、次世代につなぎます 美しい農村景観と題して募集があり応募した。

今まで、各種コンクールに応募、賞を獲得してきたが、唯一つ朝日新聞主催「にほんの里百選」には見事に落選した。今回の審査員で前回もお世話になった女優・農政ジャーナリストの浜 美枝さんと写真家の沼田早苗さんの公正な審査に委ね、気持ちは大臣賞と早や夢見る。

## 田園自然再生コンクール調査

田園自然再生コンクール受賞団体その後の活動状況調査が（二社）地域環境資源センターからあり、十二分な活動状況を報告した。

## 公民館からのお知らせ

一月三日（土） 午後五時から恒例の新年祝賀会を開催します。

行 平成二十六年十二月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二